

2025年12月19日開催 海外食品安全規制セミナーQ&A

	講師への質問	回答欄
1	FSSC Development ProgramやJFS-B規格への適合証明は、輸出を目指す食品事業者にとっては有効ではないのかと理解したのですが正しい理解でしょうか？またこれらの規格が作られた目的について、教えていただきたい。	学習資料第1章で解説しているとおり、輸出を目指す食品事業者にとって、規格の信頼性と認証プログラムの信頼性を兼ね備えたGFSI承認認証プログラムが、国際的に求められる基準であることが実証された食品安全認証規格として、グローバルな取引において、広く受け入れられ、世界の多くの企業が供給者管理に活用しています。一方で、FSSC ディベロップメントプログラムやJFS-BはCodex HACCPとGFSI Global Markets Programに準拠した規格で、中小企業の食品安全システムの向上を目的に開発されています。これらのプログラムを活用することで、取引先に対して、食品安全の取り組みを示すことができますが、GFSI承認の第三者認証プログラムではないため、受け入れの可否は取引先の要求によります。
2	GFSIのベンチマーク要求事項を元に、各国で認証プログラムが作られているのならベンチマーク要求事項で認証審査を行うことはできないのでしょうか？	まず、GFSI承認の認証プログラムは、GFSIのベンチマーク要求事項をもとに作られてるわけではありません。各食品安全認証プログラムは、ベンチマーク要求事項との相違があれば、スキームに反映しますが、固有の特色を保った各プログラムをGFSIのベンチマーク要求事項に照合し、承認されたものがGFSI承認の認証プログラムです。 また、GFSIは自ら認証プログラムを保有したり、認証を提供したりはしていません。 第1章で解説したとおり、国や地域ごとに数多く存在する食品安全認証プログラムや、取引先ごとに異なる食品安全認証プログラムの要求という課題に対応し、世界のすべてのステークホルダーに広く受け入れられる仕組みにするため、GFSIは承認のためのベンチマーク要求事項を定め、食品サプライチェーン全体での受け入れを促進する取り組みを選択しています。したがって、ベンチマーク要求事項そのもので認証審査を行うことは意図されていません。
3	ベンチマーク要求事項から認証プログラムが作られるとのことですが、それぞれの認証プログラムにはどのような特徴があるのでしょうか？	日本の加工食品に関連する認証プログラムの比較（アルファベット順） BRCGS：「何を」に加えて、「どのように」にまで、詳細に規定する傾向があります。英国小売協会に端を発するという背景から、欧州の小売業を中心に受け入れられることが比較的多いスキームと位置づけられています。 FSSC 22000：ISO 22000を基盤とするリスクベース型のスキームです。日本国内では、認証件数と認証機関数が、GFSI承認プログラムの中で最も多く、認証取得へのアクセスが容易です。 JFS-C：日本発の食品安全規格であり、ウェブサイトや規格・関連文書を含め、すべて日本語で入手可能です。日本ならではの特長として、現場からの改善提案に対する要求事項が含まれています。 SQF：業種別の要求事項に加え、任意の品質要求事項を備えています。米国の食品産業協会が運営していることから、北米の流通・フードサービスでの採用が比較的多い傾向が見られます。 ※上記はスキームの全体像の一般的な傾向のみを示しています。
4	FSSC24000のような認証はどのような国で注目されていますか？また今後はこのような認証が輸出先から求められるようになるのでしょうか？	欧州の企業サステナビリティ・デューデリジェンス指令(CSDDD)に基づく人権デューデリジェンスの適用が進むEUと輸出対応の観点からグローバルで受け入れられている第三者認証を求めるアジアの製造拠点を中心に関心が高まっています。 今後は、サプライチェーンにおける国際的な社会的責任のデューデリジェンス要求事項の遵守という観点から、SSCI(持続可能なサプライチェーンイニシアチブ)の承認プログラムを、サプライチェーンマネジメントに活用する企業が増える見込みです。